

# ほーほーどり

我孫子野鳥を守る会

No 60  
1984年  
9-10月号

## ☒ 行事案内

### 布施弁天付近探鳥会

月 日 9月9日(日) 雨天中止  
 集 合 北柏駅南口 午前9時  
 交 通 自家用車の方は便乗させて下さい。  
 (便乗する方は交通費200円負担)  
 持 物 昼食と飲料水  
 案 内 秋の渡りがはじまります。カッコウ、ツツドリ、ヒタキ類をさがします。河原のシギ・チドリにも目を向けてみます。  
 担 当 坂巻、木村

### 手賀沼探鳥会とカウント

月 日 9月15日(祭)雨天の場合は  
 9月16日(日)  
 集 合 我孫子市役所 午前9時  
 (終了 正午頃)  
 案 内 アジサイが渡って行きます。コガモが北方から姿をみせ、シラサギ類も多くなる頃です。  
 終了後、シギ・チドリ類の全国一斉カウントに参加いたします。時間のある方はご協力願います。  
 担 当 畑、欽泉、坂巻

### タカ渡る伊良湖岬探鳥会 バス・ツアー(要予約)

月 日 9月28日~30日(金土日)  
 集 合 28日午後9時 (夜行)  
 我孫子中央公民館  
 宿 泊 愛知県伊良湖岬 民宿五月堂  
 (電話 05313-5-1048)  
 費 用 約20,000円(宿泊交通)  
 持 物 29日の朝食  
 案 内 伊良湖岬。いろいろな鳥の渡る中継地、特にタカの大群で渡る壮大な光景は素晴らしい、ヒヨドリの渡りもロマンを感じます。ハヤブサの探餌もみられます。  
 汐川干潟。広大な干潟でシギ・チドリの多いところ、珍鳥のよくでるところです。  
 予約申込先 (88)400-6 中尾。  
 定員15名(9月15日締切)  
 担当 高橋、坂巻、中尾

### 手賀沼探鳥会とカウント

月 日 10月14日(日) 雨天中止  
 集 合 我孫子市役所 午前9時  
 (終了 正午頃)  
 案 内 カモがそろそろ揃う頃です。  
 担 当 飯泉、畑

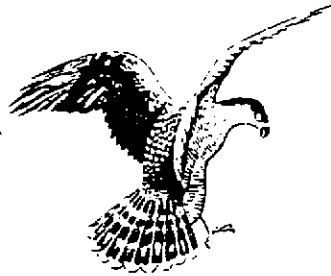
## ホテルの園の整備

お手すきの方、是非ご協力お願いします。  
月・日 10月14日 午後1時30分～  
4時頃。

鎌があつたら持参下さい。

## 大子・袋田付近探鳥会 要予約

月 日 10月28日(日) 雨天中止  
集 合 我孫子中央公民館 午前7時  
交 通 マイカー4台に分乗。(便乗者は  
2,500円負担して下さい。)  
定 員 便乗者定員12名、満員になり次  
第締切りとします。  
申込先 (82)2268 坂巻。  
持 物 昼食と飲物  
案 内 ヤマセミ、カワガラス、セキレイ  
類、山の小鳥類等、紅葉もよいかも、  
オンドリも出るそうです。  
担 当 村上、木村、畑、坂巻



## ◎ 行事報告

### ○ 本栖湖、朝霧高原探鳥会に参加して

村上 弘

6月16日(出)、今にも雨が降り出しそうな我孫子を出発した。私にとっては初めての探鳥旅行である。バスの中で安本さんの水割りサービスを受けたり、野鳥テープを聴かせてもらって楽しく過ごしている間に、最初の探鳥地御殿場二岡神社に到着した。大木の茂る立派な神社である。雨がぼつぼつ降る中を何が出るか期待に胸ふくらせて参道をゆっくり進んで行くと、あちこちから囀りが聞こえてきた。しかし聞きなれない私にとっては、声だけでは何鳥か分からない、ベテランの高橋氏や坂巻氏に「左はオオルリで右はキビタキですよ。」と教えてもらい姿を思い浮かべる。他にメジロ、イカル、コゲラの囀りも聞こえたが姿は全く見ることが出来なかったのは少々残念だった。

次に訪れたのは東富士演習場に隣接する<sup>みど</sup>水土野の大草原で、今にもどこかから砲弾が飛んできそうな荒野であった。遅い昼食をバスの中でとっていると、飯泉氏が「ホオアカを見たい人!!」と外で呼びかけている。握り飯を置いて急いでプロミナーを覗かせてもらう。いたいたホオの赤いすずめに似たかわいい鳥が精一杯囀っている。我孫子では見ることが出来ないこの鳥をはじめ見るこの感動は大変大きかった。アカモズ、ホオジロもこの広い草原で初夏をのびのび囀歌している感じであった。

水土野から籠坂峠をこえて山中湖畔旭ヶ丘の水場に着いた。ここは閑静な別荘地帯という感じで緑の非常に濃い場所だった。水場には何もいなかったが、高い木の頂上でビンズイ、ヒガラが皆を歓迎するように高らかに囀っていた。姿は見えなかったが、センダイムシク

富士探鳥メモ

中 ひろし

諸鳥の消えて星ある澗河原

御殿場二の岡神社（二句）

青木ヶ原（三句）

大瑠璃や梅雨深ぶかと神の杉

苔濡れて朝のこがらの声透る

黄蘗の遠音は淋し梅雨の傘

朝まだき仙台虫喰は唄短か

本栖湖畔（五句）

藪雨や嘉永と読める供養塔

十一や夕べ咽喉灼くブランドイ

朝霧高原（三句）

彼は誰や夜鷹が刻む沢の閨

野鶯の雨にし鳴けり朝の牧

木葉木菟その一声に耳澄ます

雉啼いて久潤の野にわれらある

佛法僧ひた恋ひて坐す梅雨の石

頬赤や家苞に摘む梅雨の草

イ、コルリ、サンショクイも美声を競っていた。

4時頃、宿泊地の精進湖畔の民宿村に到着した。宿の近くを東海自然歩道が通っており、小休止の後に鳥を求めて散策に出かけた。青木ヶ原樹海の端に当り、昼なお暗い森の中でヒガラ、アオゲラ等が囀っていた。

夕食はコロツ葉という珍なるものをいただき早々と終えた。夕暮を待って本栖湖畔のコノハズクを聞きに出かけた。静かな山の谷間にツツドリ、ジュウイチ、ヨタカ、ホトトギス、クロツグミの声がひびいて、昼とはちがった神秘的な雰囲気満ちていた。コノハズクはわずかに速くで二声聞くことが出来たが、8時過ぎにここを後にした。

翌朝は4時起きで、青木ヶ原樹海の富士登山道あたりまで足をのびした。天候のせい(曇)鳥の数は少なかった。キビタキ、ヒガラ、センダイムシクイ、シジュウカラ、カケス等が認められた。朝食後、今回のメインイベント朝霧高原に出発した。富士山はすっかり濃い霧に覆われて、正にその名の通りの高原となった。霧の晴れ間からノビタキの美しい胸やホトトギスの縞模様を見ることが出来、又、アカハラ、ホオアカ、キジ、シジュウカラがその美しい姿を現わして我々を喜ばせた。天気が良ければ雄大な富士をバックにもっと多くの鳥が見れたであろう。昼頃、この美しい自然をいつまでも残したいものだと思いつつ、帰路についた。

二日間で40種類以上の鳥を見、聞き出来てとても楽しい旅でした。幹事の方はじめ皆様には大変お世話になりありがとうございました。

〈認めた鳥〉 トビ、ノスリ、キジ、キジバト、ジュウイチ、カッコウ、ツツドリ、ホトトギス、コノハズク、ヨタカ、アオゲラ、アカゲラ、コゲラ、ヒバリ、ツバメ、イワツバメ、キセキレイ、ハクセキレイ、ビンズイ、サンショクイ、ヒヨドリ、モズ、アカモズ、ミンサザイ、コルリ、ノビタキ、トラツグミ、

クロツグミ、アカハラ、ヤブサメ、ウグイス、メボソムシクイ、センダイムシクイ、セッカ、キビタキ、オオルリ、コサメビタキ、コガラ、ヒガラ、シジュウカラ、メジロ、ホオジロ、ホオアカ、アオジ、カワラヒワ、イカル、スズメ、ムクドリ、カケス、オナガ、ハンプトガラス 計51種 番外ドバト。

〈参加者〉 深谷幸枝、渡辺波江、畑幸正、中尾照平・米子、中 弘・迪子、篠山久美子、飯泉 仁、坂巻忠雄、高橋敏夫、安本昌彦、三神鶴吉・淑子、庄崎富佐子、島崎純造、村上 弘、柴田五郎、大坂輝子、玉井正博、小野勝義、 以上21名



○ 郭公の声を聞く会

首藤 佑吉

月日星と鳴く鳥の名前が三光鳥であると聞かされた時、私は大いに感じ入ったものである。何と優雅で思慮深い名付方であることか。「カッコー」と鳴く鳥の名前が郭公である。これはこれで亦、私のような探鳥の素人にはわかり易くてよい。

三省堂によれば郭公の英文名はCuckooであり、洋の東西を問はず郭公の鳴声は人の耳に印象的である事を示している。Cuckooには俗語で「まねけ」とか「おばかさん」の意味があるが、托卵のしたたか者郭公にも抜けた振舞があるとすれば面白い。

6月24日の午前6時、曇天下に薄い朝もやが漂っている。我孫子駅に集合した会員有志20名はアクビをしながら6台の車に分乗して布施地先に向った。郭公の声を聞くのが目的である。

布施井天を後にして利根川の河原に出たところで車を留め、声にはさまれた路を下流に向かって歩き始めたが、周囲は耳を聳するばかりのヨシキリの声に満ちている。まだ朝もやは暗れず、河原の風が肌に冷たい。

歩くことしばし、土手の方角から明らかな郭公の声が聞えた。かなりの距離と思えたが胸に含んだ低音の長波が朝もやとヨシキリの声を買って届いてくる。鳴き始めると繰返しきりに鳴く。しばらく間を置いて又鳴き始める。一同耳を傾けながら眺望のきく草原に出る。プロミナーを覗く内、前方の電線上の黒点が郭公であると知らされた。距離7~800m、2羽か3羽か。ズームを50倍に上げたが遠い。眼光届けと目をこらしている内、ふと左方から発した鳥影が曇天を横切って前方150mの柳の先端に止まった。「郭公ノ」リーダーの声に皆一斉に柳へプロミナーを向ける。横溝入りの白い胸を正面にして頭をもたげ、しかしダラリと両翼を落した鳥の姿が

レンズに映る。やゝくずれた身仕舞であるが郭公独特の止り方ですとリーダーが説明してくれる。図鑑の姿とは趣を異にしている。

奇遇であった。私は対岸のゴルフ場でショットの合間に、しばしば郭公の声を耳にしたものだが、ついぞその姿を見た事がなかった。先日もプロミナーを担いでゴルフ場の周辺を徘徊したがやはり郭公の姿はなかった。この遭遇は初であり鳥運来るとばかりにプロミナーを覗き続けた。胸がふくらみ、首が横にねじられて口ばしが開く。僅かの時間差を置いて、「カッコー」が耳に達する。

突然1羽の小さな影がプロミナーに飛込み、郭公を威かくし始めた。モズである。郭公はたちまち驚き垂れた翼を戻す間もなくあたふたと飛び去り、後にはモズの胸を張った姿と高らかな勝鬨が残る。小さなモズに郭公がかくも狼狽の態を見せるとは意外であった。里親への気がねか或は里親に放逐された忌まわしい記憶が甦るのかも知れない。

予期せぬ自然のドラマに接し満足げな私をリーダーが目ざとく見つけて私に問いかけた。「郭公は初めてかね？」

「はい」

「面白いでしょう」

「はい」

「では記事にして下さい」

「?!」

かくてついに駄文を弄する結果となった。

<認めた鳥> ゴイサギ、ダイサギ、コサギ、カルガモ、キジ、チドリSP、キジバト、カッコウ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、モズ、オオヨシキリ、セッカ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシボソガラス、計20種

<参加者> 安味直昭、前橋 篤、古川幸三、首藤佑吉、中尾照平・米子、深谷幸枝、吉池良一・みち、佐藤豊、知野二郎、志賀鉄雄、木村 稔、志田十九次郎、中山一郎、村上 弘・徹、高橋敏夫、畑 幸正、坂巻忠雄 以上 20名

○ ホタル観賞会

我孫子市第一小学校2年

白形岳士

はじめ、おかあさんが「ホタル見に、行く」と、ききました。ぼくは、「行く行く」といいました。

しやくしよから、ゆうせいやなんかの、ほんたいのみちをいって、てがぬまのユーホドーにはいって「あやめの里」と書いてあるところをまがって、ごぼんまつこうえんに、いくとちゅうのみち田んぼの中と、くさむらにとんだり止ったりしていました。

ぼくは、はじめ、ホタルは、大きいと思ってたけど、つかまえてみてみたら、5mmぐらいに見えたけど、おかあさんは、8mmぐらいだよといっていました。

ホタルの、ひかる明るさは、もっと明るいのと思っていたのに、ホタルをみたら、あんまり、よく見えなくて、光が青っぽかったです。それに、ホタルは、とばないとおもっていたのに、とんだので、びっくりしてしまいました。

おとうとが「ホタルは、せみにてたよ」といいました。

帰りに、おとうとが、星のことを、ホタルだといっていました。

おとうとは、おもしろいやつだと思いました。

それが、ホタルを見にいて、わかったことです。

○ 「ホタルを見て・・・」

我孫子第一小学校4年

川久保典昭

ぼくは、ホタルを見たのは、今日が初めてです。信号がてんめつする時のように、ピカリピカリと、くつきりと、青く光っていました。

た。メスの光にさそわれて、オスがよってきて、交じり合うそうです。飛んでいるホタルは青い光のすじが、おをひいて、とてもきれいでした。

とてもむし暑い日でしたが、ホタルが出てくるのにはとてもよい、気温だそうです。

せい虫になってからは、水だけ飲んで、十日ほどしか生きていないそうです。その話を聞いてから、ぼくは、ホタルが、かわいそうだ、と思いました。

だから、みんなで大切に守ってあげなければいけないと思いました。

○ 手賀沼カウント

調査日時	5 9 . 6 . 1 0 . ( 曇 )		
	9 : 3 0 ~ 1 2 : 0 0		
<参加者> 玉井正博、畑 幸正・久子 柴田五郎、村上 弘・徹、篠山久美子、 飯泉 仁、坂巻忠雄、中尾照平・米子、 首藤佑吉・美恵子、岡本早苗、高橋敏夫、 以上15名(含探鳥班)			
鳥 種	上 沼	下 沼	計
カイツブリ	—	1 0	1 0
ゴイサギ	2	3	5
コサギ	2	3	5
アオサギ	—	1	1
カルガモ	2 1	7	2 8
ハシビロガモ	—	1	1
キンクロハジロ	—	1	1
バン	1	—	1
オオバン	2	5	7
コアジサシ	—	8	8
計	2 8	3 9	6 7

〈特に認めた鳥〉 サシバ(2)、キジバト  
コゲラ、ヒバリ、ツバメ、ヒヨドリ、オオヨ  
シキリ、セッカ、ホオジロ、カワラヒワ、ス  
ズメ、ムクドリ、ハシボソガラス、計13種。  
番外ドバト、セキセイインコ、2種。

合計25種。 サシバ2羽、樹枝上にとま  
つていて、この日の圧巻でした。

調査日時 5. 9. 7. 8. (雨)			
9:30~11:30			
〈参加者〉 中尾照平・米子、高橋敏夫、 村上 弘・徹、畑 幸正、以上6名			
鳥 種	上 沼	下 沼	計
カイツブリ	15	11	26
ヨシゴイ	4	2	6
ゴイサギ	1	1	2
アマサギ	—	9	9
ダイサギ	—	1	1
チュウサギ	—	1	1
コサギ	2	3	5
カルガモ	5	6	11
バン	—	1	1
オオバン	4	6	10
コアジサシ	—	7	7
計 11種	31	48	79

〈他に認めた鳥〉 キジバト、ヒバリ、ツバ  
メ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、オオヨシキリ、  
セッカ、ホオジロ、カワラヒワ、スズメ、ム  
クドリ、オナガ、ハシボソガラス、計13種。  
合計24種

## △ 寄 稿

「コノハズク」に魅せられて  
(四尾蓮湖探鳥記)

中尾照平 記

比処2~3年来、毎年本栖湖へ行っても満  
足に「コノハズク」(佛法僧)の声を聴くこ  
とが出来なかった。日本野鳥の会発行の「日  
本の探鳥地777」に依ると、山梨県四尾蓮  
湖に行けば、この時期必ず「コノハズク」が  
鳴いて居ると記してあり、はやる気持を押え  
る事が出来ないで居た処。甥が「つれて行く」  
との幸便を得た。先週本栖湖へ出かけたばかり  
であったが、6月23日勇躍四尾蓮湖へと  
出発した次第。

四尾蓮湖は山梨県大昌山中腹にある小さい  
湖である。周囲に深緑の樹々が繁り、その影  
を水に写すときは、神秘靈湖の名に応しい。

我孫子市役所より湖畔迄18.7kmを一気に  
走り(中央高速を甲府南ICでおり、市川大  
門町を経て四尾蓮湖公園線に乗る)目的地到  
いたが、あまり鳥の声は聴こえてこない。だ  
が、コノハズクの「オットー」と聴ければ満足  
と湖周辺で待機する事とした。

宿(水明館)の人の話に依ると、コノハズ  
クの初鳴は5月3日、毎晩9時頃には盛んに  
鳴くと。

湖畔に待機するも一向に鳴いてくれない、  
いささかあせり気味、又ここに来て迄空振り  
かと一沫の不安が横切る。

午後10時、蛾が岳の方向で待望の「コノ  
ハズク」が鳴き出したとの連絡あり、それと  
ばかりに闇の夜道を500m駆け下りる。森  
の開口部に出る明瞭な声で鳴いて居る鳴いて  
いる。正確にオットーと、傍の人がつぶ  
やく「1分間に29回鳴いた」と。明瞭な高  
音が山々に届している。来た甲斐があったと  
満足感が漲る。いささか興奮気味であった。

この日甲府支部、中村司先生（山梨大学）にお会いする事が出来た。先生の御父上が、日本で最初にブッポウソウと鳴く正体はコノハズクである事を発見された由。

中村先生に翌日の本栖湖への帰路を御たずねした処、姿の「ブッポウソウ」が営業して居る処を紹介していただいた。

あけて24日宿を0730出発、一気に山道（農道）を下る。ふと振り返ると今通った道が目前に聳立って居る、心臓を寒からしめた「嶺部落」に至る。

楠の大樹に「ブッポウソウ」がつかいで優雅な姿を見せてくれて居る。嘴の赤がきわだつて居る。

姿と声の「ブッポウソウ」を見せ聴かせて頂いた、中村、日向両先生に感謝しつつ国道300号線を経由、一路朝霧高原「野外活動センター」へ、この前認められなかった「オオジギ」の飛翔を堪能して帰路についた。

今回の経験よりするとコノハズクは遅い時刻（午後9時以降）にならないと鳴き出さない事が判り、本栖湖でも午後10時頃迄待機したら聴けたかも知れないと思った。

四尾蓮湖へ至る迄に途中「帯那トンネル」があり古いトンネルの為大型バスでは通れない。又可成登ってから、県道より湖畔迄が少々道中狭く注意が必要である。帰路本栖湖へ出るのは、一旦市川大門町へ戻り、甲府精進湖有料道路への利用が安全と考へます。

四尾蓮湖探鳥は、5月末より6月初めを推奨します（7月に入ると避暑客が来るので、

探鳥どころでは無い由）

◇ 今回観察出来た鳥は、44種

（以上）

こ 寄 附

一金 5,000円 小林節子様  
（千葉県水質保全研究所）  
ご芳志厚く御礼申し上げます

後記。野の鳥たちにやさしい心をむける市民の方々が多くなってきたようです。今年の繁殖期には、ツバメ、キジバト、カルガモ、その他のヒナに関する問合せが、沢山ありました。ありがたいことです。

6月24日早朝探鳥会が終ってから、有志で、利根川沿いに、江蔵地、竜台、そして遂に、小見川まで行ってしまいました。昼食ぬきで5時までねばり、コヨシキリ、コジュリン、ツバメチドリ（6）、ヒタイナ・・・と、相当の成果でした。

ホテル観賞会は、我孫子のお祭りで交通規制であったにもかかわらず、約50人程の参加があり、ホテルは昨年より数多く、よい観賞会になりました。

それにいたしましても、暑い暑い日が続きます。それでも干潟ではシギ・チドリが秋の渡りをしています。皆様お元気で、お出かけ下さい。（高橋 記）

我孫子野鳥を守る会会報 第60号	
発行人	坂 巻 忠 雄 TEL (0471) 82-2268
住 所	我孫子市白山2-13-13
振 替	東京 4-51628
	我孫子市湖北台7-1-401 中尾方
	我孫子野鳥を守る会 坂巻忠雄
会 費	年額 1,500円（中学生以下500円）